

4月2日 (水)

クラクフ



マリア教会

9:00 になるとラツパの音が鳴り響く。その理由として、モンゴル軍の侵入を知らせるためという史実が残っている。写真の通り、塔はシンメトリーではない。というのも、左右を任された兄弟がライバルで、その高さを競ったためといわれる。左の塔は様式不定で 81m、右の塔はルネサンス様式で 65m。内陣のステンドグラスは 14 世紀のものである。

マリア教会前にある広場は 1257 年に作られ、一辺 200m の正方形で、クラクフ最大の市場として有名。中央に織物会館が位置し、周囲を旧市役所、教会などが囲む。よく見ると建物にはライオン、クマ、像などエキゾチックな動物がシンボルとして描かれており、特に多い鷲はポーランド、ハプスブルク家の象徴となっている。

織物会館

クラクフの町の中央に建つ織物会館。13 世紀に建てられた。

18 世紀にオーストリア、ロシア、プロイセンによってポーランド分割が行われた。ただしオーストリアだけは同化政策を行わなかったため、オーストリア領になったポーランド南部にはポーランド文化がよく残った。

特にクラクフだけはポーランドの文化が継承されてきた。そのためクラクフは、今もポーランド文化の中心である。





織物会館の内部

色鮮やかな民族衣装や小物が所狭しと売られている。

写真のように比較的小さなお店が、左右にびっしり軒を連ねている。

織物会館で見つけたクラクフ人形

お腹にクラクフと刺繍されているドラゴンのぬいぐるみ。

ヴァヴェル城の地下にはドラゴンが住んでいるという言い伝えがあるそうだ。



クラクフの路面電車

クラクフ旧市街での一枚。路面電車は青色をベースとしたものが主流のようだったが、クラクフのマスコットキャラクターの車両を発見！！



ヤギェウオ大学

1364年に創立され、コペルニクスを輩出したことでも知られる歴史ある大学。18世紀のポーランド分割により国家が消滅した後も、ヤギェウオ大学ではポーランド語による教育がなされていた。

第二次世界大戦で首都ワルシャワが壊滅したため、学術・文化の中心とますます重要な大学になった。

ヴァヴェル城

クラクフ旧市街地の最南部、ポーランド最大の川であるヴィスワ川のほとりに建つ。城からの眺めが美しい。

歴代ポーランド王の居城であり、歴史あるポーランド王国の栄光に満ち溢れている。15世紀末の火災の後、ジグムント1世によってルネサンス様式で再建された。丸い屋根一つ一つがチャペルになっている。



シナゴーク

クラクフ旧市街地の南にユダヤ人街であるカジミエーシュ地区がある。ここにはシナゴーク(ユダヤ人教会)をはじめ、ユダヤ人ゆかりの文化施設が集中する。

この地域に住むユダヤ人は、第二次世界大戦時、ナチスの政策でゲットーに移り住まわされた。かつては数万人いたユダヤ人も、現在は数百人ほどしか住んでいないという。



カジミエジュ地区

クラクフの旧市街の南にある、旧ユダヤ人地区。第二次大戦前はユダヤ文化の中心地であった。

壁面には、ユダヤ教・ユダヤ民族を象徴するダビデの星を見ることができる。



ユダヤ人の墓

シナゴークにあるユダヤ人の墓。ヘブライ文字が彫られた墓石が並ぶ。

第二次世界大戦中、ユダヤ人の名前や生年月日が記されたお墓はナチスの標的にされ、壊されたり傷つけられたりした。戦後は修復が進められたが、その傷跡は今もしっかりと残されている。



ユダヤ人墓地

ユダヤ人と一口に言っても、彼らはさまざまな社会階層に所属していた。お金持ちのユダヤ人が住む地域は限定されていた。一方、1938年11月に起きたナチスによるユダヤ人商店打ちこわし事件、いわゆる「水晶の夜」の犠牲になった人々は、中～下の階級のユダヤ人だった。富豪も暴力の対象とされたのは1942年以降のこと。貧富の差はこんなところにも影響していた。

お墓はその民族、人々が存在した証なので、戦争になったり国境が変化すると必ず破壊の対象になる。政治上それは重要なことで、真っ先に行われる作業である。写真では手前の墓石が古く、右奥は芝が生え墓石も新しい。左奥は芝だけで墓石は立てられていない。ユダヤ人墓地の復旧が、徐々に行われているのである。



ゲットー跡地

カジミエーシュ地区からさらに南、ヴィスワ川の橋を渡った先に、第二次世界大戦時、ナチスの政策によってユダヤ人が強制的に住まわされた居住地(ゲットー)があった。

このゲットーが機能していたのは、1941年から1943年のわずか2年ほどだったが、そこに住んでいた人々の多くは強制収容所に移送された。

ゲットー跡地

ゲットーghetto とは、かつてヴェネツィアにあったユダヤ人地区の名に由来するイタリア語である。

写真は、第二次世界大戦時に設置されていたゲットーを囲んでいた壁の一部である。3mを越す高さから、いかに厳しい仕切りだったかがわかる。今も献花する人が絶えない。



シンドラの工場の跡地

第二次世界大戦中、ここで働かされていた多くのユダヤ人の命を救ったというオスカー・シンドラの工場の跡地。スティーヴン・スピルバーグ監督の映画『シンドラのリスト』の舞台として世界的に知られる。

工場そのものは立て替えられたが、鉄の門は当時のものである。ただし、見学したときは、工場の整備作業中のため門を見ることができず、写真にあるような表示が見えるだけだった。





ヴィエリチカ岩塩採掘場

1250年頃から1950年代まで稼働していた、世界有数の規模の岩塩採掘場。

1978年に世界遺産に登録された。

写真は、採掘跡の空間を利用して作られた「聖キング礼拝堂」の様子である。天井から下がっているシャンデリア、床も祭壇もすべて塩からできている。

